

知床自然の森林づくり
現状と課題

平成 19 年 7 月 13 日
北海道森林管理局

目 次

- 1 知床の森林の現状と課題.....P1
- 2 北海道の旅行者の動向.....P8

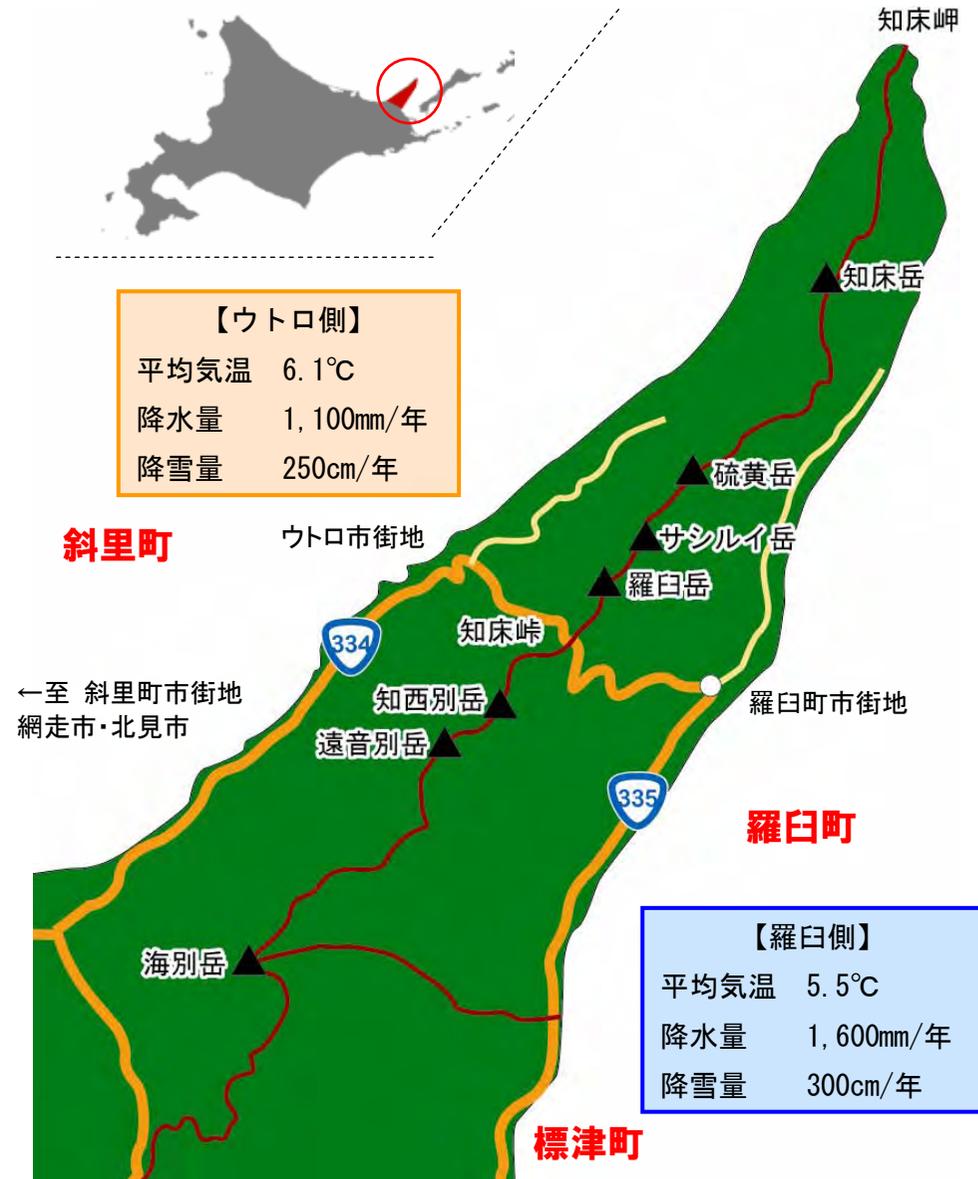
● 気候の特徴

知床半島は、周囲を海に囲まれ中央に標高1,000m級の高山が縦走していることから、海洋の影響を強く受け、羅臼側（根室海峡側）とウトロ側（オホーツク海側）とでは気候に著しい差がある。

羅臼側は、海霧と太平洋の風の影響で、ウトロ側に比べ冬暖かく夏涼しく、道東でも有数の多雨地帯である。

一方、ウトロ側は羅臼側に比べ、冬は寒く夏は暑くなるほか、降水量も少ない。

オホーツク海岸線は、冬期間特有の現象として流水が見られ、ウトロ側の海岸では平年1月下旬頃から3月中旬まで流水が接岸する。流水は、知床半島を巻くような形で羅臼側にも流れていき、流水が接岸すると、気候は内陸性となり最低気温が下がる。



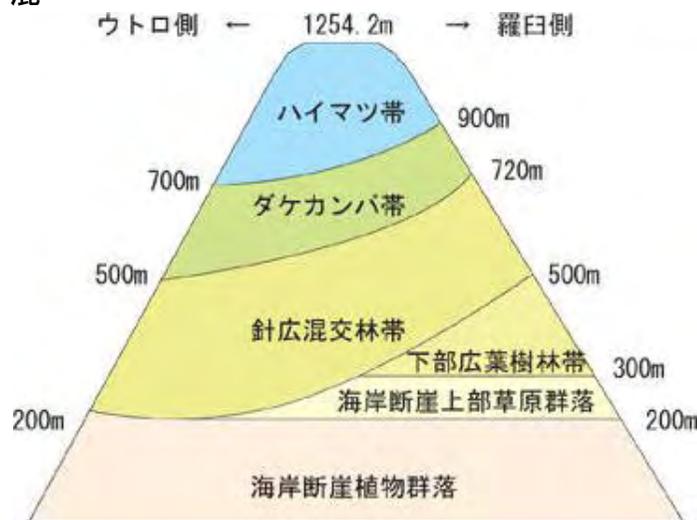
● 自然の特徴

知床は、北半球で最も低緯度で流氷を観測できる地域であり、流氷がもたらす栄養分を植物連鎖の基礎として、トドやヒグマなどの海や陸にすむ様々な生きものを育てている。知床は、海洋生物系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本となっている。

知床には、シレットコスミレやチシマコハマギクなどの希少な高山植物が生育している。また、国際的にも希少なシマフクロウの生息地、オオワシ、オジロワシの越冬地としても重要な地域となっている。

さらに、ヒグマやエゾシカなどの大型のほ乳類が高密度で生息しており、知床の自然の豊かさを示している。

知床の森林は、海岸植物から、温帯、亜寒帯、高山帯と様々な植物相が連続的に形成されており、また、北方系と南方系の植物が混在して豊かなものとなっている。



シレットコスミレ

● 世界自然遺産「知床」の概要

登録年月日	平成17年 7月
位置	・北海道斜里郡斜里町及び目梨郡羅臼町 ・遠音別岳原生自然環境保全地域、知床国立公園、知床森林生態系保護地域等に指定されている
面積	約71,000ha
共同推薦省庁	環境省、林野庁及び文化庁



〔知床をとりまく様々な制度〕

<p>■ 遠音別原生自然環境保全地域 …国内5ヶ所の原生自然環境保全地域のうち最も広い面積を有し、国立公園よりも厳しく保全されている</p>	<p>■ 知床国立公園 …特別保護地区が面積の61%を占め、全国で最も保護に重点を置いた国立公園といえる</p>	<p>■ 国指定知床鳥獣保護区 …保護区内では鳥獣の保護繁殖のため、鳥獣の捕獲、殺傷の禁止を定めている</p>	<p>■ 知床森林生態系保護地域 …木材生産を目的とする森林伐採は行われておらず、生態系の保全を最優先とする地域</p>

● 知床の国有林

知床半島の約9割が国有林で占められており、ウトロ側（オホーツク海側）は、網走南部森林管理署、羅臼側（根室海峡側）は、根釧東部森林管理署が管理している。

また、世界自然遺産として登録された区域約71,000haのうち、陸域の9割以上が国有林であり、そのすべてを「森林生態系保護地域」として知床の環境保全に努めている。さらに、世界遺産区域以外においても、^{うなべつだけ}海別岳植生群落保護林及び斜里岳植物群落保護林を結ぶ「知床半島緑の回廊」を設定し、野生生物の多様性を保全し、豊かにするよう努めている。

（私有林の状況）

私有林は半島の海岸沿いに分布している。世界遺産区域内では、幌別・岩尾別地区に、財務省所管の国有地が約70ha、斜里町有地と開拓跡地等が合わせて約1,000haあり、開拓跡地等の中では、昭和52年から「知床100平方メートル運動」が行われ、森林の復元が行われている。また、ルシャ地区には、北海道有林が約1,200haがある。



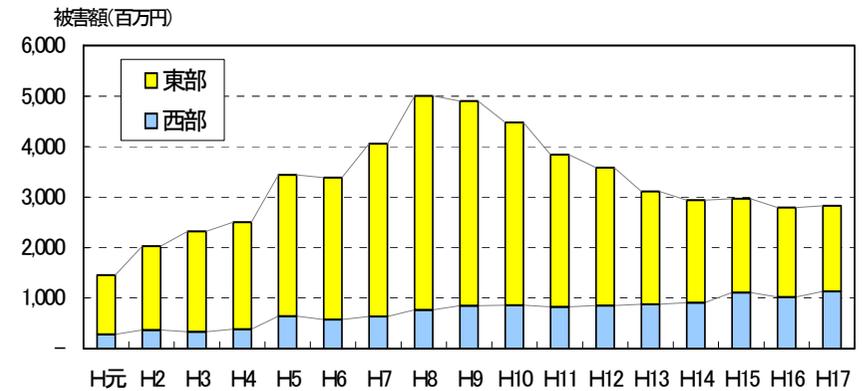
● エゾシカによる樹木被害

北海道では、1990年代以降、エゾシカの生息数の増加による森林被害が大きな問題となっており、知床においても個体数が高密度状態で推移し、広葉樹の食害や希少植物減少など生態系への影響が危ぶまれている。2006年には、知床世界自然遺産地域科学委員会の下に設けられたエゾシカワーキンググループにより、2007年から5年間の「知床半島エゾシカ保護管理計画」が策定され、ウトロ市街地への柵の設置や、エゾシカの追い出し作業、捕獲実験などの対策がとられている。

知床森林センターでは、エゾシカが好む樹種の一つであるイチイに着目し、イチイ林木遺伝資源保存林（斜里町ウトロ）において、平成9年より樹皮食いによる食害について毎年調査を行っているが、被害の割合は、年々増加している。

また、イチイを食害から保護するため、イベントや調査を通じて食害防除網を巻き、経過をみている。

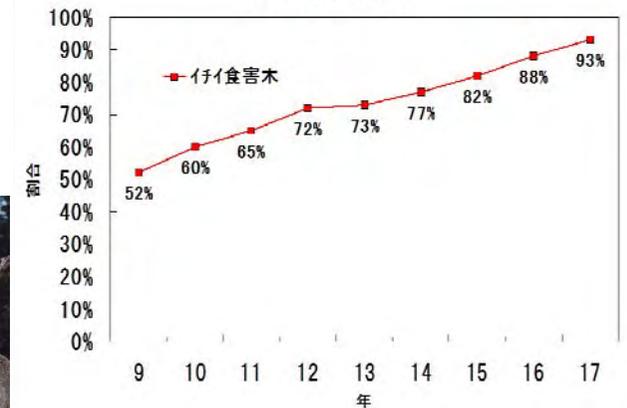
エゾシカによる農業、林業被害金額の推移



(参考:北海道HP)



イチイの食害推移



● 知床世界遺産周辺の森林

林野庁所管国有林の森林の取扱いについては、遺産区域外の民有林との境に、下刈、除伐、間伐などの管理を行うべき人工林(右図青色斜線部参照)が多い。

斜里町の民有林面積は、約7,500haで、このうち3,200haが人工林、羅臼町の民有林面積は約3,000haで、このうち640haが人工林となっており、人工林の林齢は36～40年生(8齢級)が中心である。

斜里町と羅臼町の森林の状況

区分		森林面積	うち天然林	うち人工林	(齢級のピーク)※
斜里町	国有林	49,791	30,920	4,147	(9齢級)
	民有林	7,525	4,059	3,211	(8齢級)
	総数	57,316	34,979	7,358	
羅臼町	国有林	34,930	23,844	995	(8齢級)
	民有林	3,004	2,233	639	(8齢級)
	総数	37,934	26,077	1,634	

注:1 各森林計画区の森林計画書による。

2 森林面積には、伐採跡地及び未立木地を含んでいるため、人工林と天然林の計と一致しない。

3 ※の「齢級のピーク」は各森林計画区全体の人工林の齢級である。

知床半島国有林の森林の取扱い



〔課題〕

知床は、原始的な自然環境が保全されている貴重な地域である一方、エゾシカ被害を受けている森林や世界遺産周辺に手入れが必要な森林が散在しており、被害防止対策や森林再生に向けた取組が必要。

● 森林の利用状況

知床においては、来訪者が森林とふれあう場所が集中しており、来訪者が集中する知床五湖周辺での繁忙期の車の渋滞や散策路の拡幅、来訪者が増えてきている羅臼湖周辺での植生荒廃などが問題視されている。

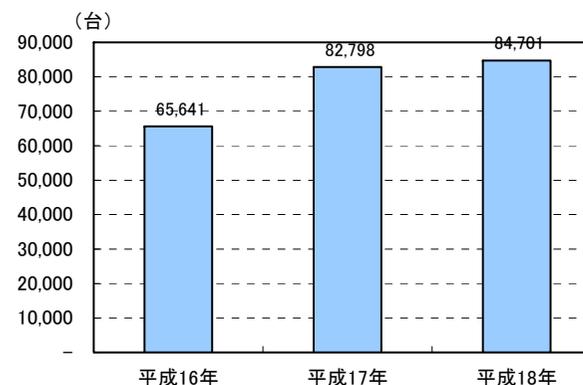


混雑する知床五湖の様子



利用者による踏み荒らし

知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較
(4～11月)



出典：知床国立公園利用適正化検討会議資料（環境省ウトロ自然保護官事務所）

知床森林生態系保護地域保存地区の入込者増による問題点

森林生態系保護地域名	箇所名	想定される入込者	問題点
知床	羅臼岳	1万人	歩道の拡幅による植生荒廃 し尿の放置
	羅臼湖	7千人	歩道の拡幅による植生荒廃

(参考：林野庁業務資料)

〔課題〕

来訪者の集中による植生荒廃等が問題視されている一方、遺産内へ無秩序な入込みは新たな問題を起こしかねないため、来訪者に対し、指導者による森林体験プログラムの展開をすすめることが必要。

● 観光入込客数

北海道の観光入込客数調査報告書によると、平成15～17年度の観光入込客の総数(実人数)は、約4,800万人で推移、このうち道外客は、約630万人で推移している。

斜里町、羅臼町における観光入込客数の推移をみると、世界自然遺産に登録された平成17年に前年に対して大きく増加し、平成18年は、斜里町約165万人(対前年比96%)、羅臼町約76万人(対前年比100%)となっている。

一方、北海道内の空港別来道者数をみると、平成18年度は、道内全体では、11,307千人で対前年度比103%、知床半島に近い女満別空港は、412千人で対前年度比111%と他の空港よりも増加率が高くなっている。

北海道内の空港別来道者数

(単位：人、%)

空 港	平成17年度	平成18年度	対前年比
千歳着	8,278,654	8,608,499	104.0
函館着	884,545	854,439	96.6
旭川着	574,267	604,109	105.2
稚内着	93,900	95,671	101.9
中標津着	56,994	53,843	94.5
帯広着	306,182	309,042	100.9
釧路着	348,662	342,214	98.2
女満別着	370,286	412,208	111.3
紋別着	29,583	27,519	93.0
合計	10,943,073	11,307,544	103.3

出典：来道者輸送実績（北海道）

平成17年度「観光入込客数（実人数）」

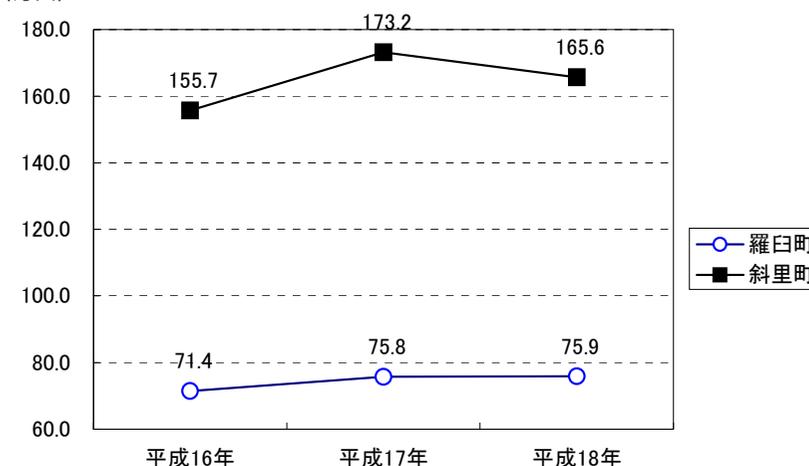
(単位：万人)

	総数 (対前年比)	道外客 (対前年比)		道内客 (対前年比)	
		道外客 (対前年比)	道内客 (対前年比)		
平成15年度	4,939 (98.6)	635 (99.5)	4,304 (98.5)		
平成16年度	4,839 (98.0)	632 (99.5)	4,207 (97.7)		
平成17年度	4,813 (99.5)	635 (100.5)	4,178 (99.3)		

出典：北海道観光客入込客数調査報告書（北海道）

斜里町・羅臼町の観光入込客数の推移

(万人)



出典：知床国立公園利用適正化検討会議資料（環境省ウトロ自然保護官事務所）

● 修学旅行の動向

平成9年～17年の全国の高等学校における修学旅行先都道府県をみると、北海道は、高等学校では1～3位となっている。

全国高等学校における修学旅行先都道府県(上位10位)

[高等学校]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
平成9年度	京都 23.5	北海道 16.0	奈良 15.5	沖縄 14.0	長崎 13.7	長野 13.4	東京 13.3	千葉 12.6	海外 11.3	大阪 11.1
平成11年度	北海道 19.9	京都 18.7	沖縄 16.3	海外 13.5	奈良 12.5	長崎 12.2	東京 11.1	長野 10.9	大阪 8.1	福岡 7.2
平成13年度	大阪 22.4	京都 22.0	北海道 17.5	東京 14.9	長崎 13.9	奈良 12.0	長野 11.0	沖縄 10.8	兵庫 9.4	広島 8.4
平成15年度	沖縄 24.1	北海道 22.8	京都 21.1	大阪 18.0	奈良 14.2	東京 12.0	長崎 8.2	広島 7.7	長野 7.4	兵庫 6.2
平成17年度	沖縄 22.7	北海道 17.0	京都 8.3	大阪 5.5	長野 5.2	東京 4.5	長崎 4.2	オーストラリア 3.8	奈良 3.2	韓国 3.2

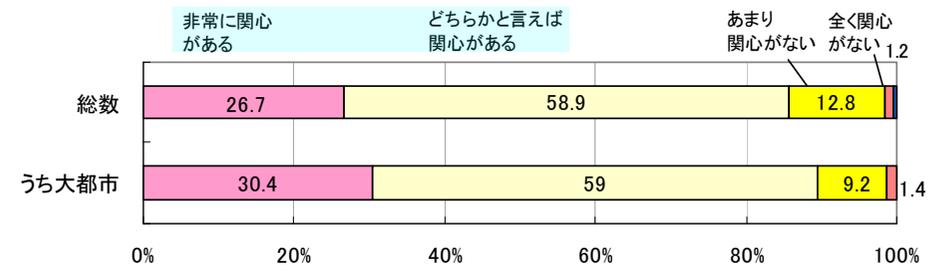
出典：平成17年全国高等学校・全国中学校修学旅行の調査（(財)日本修学旅行協会）

● 自然に関する意識

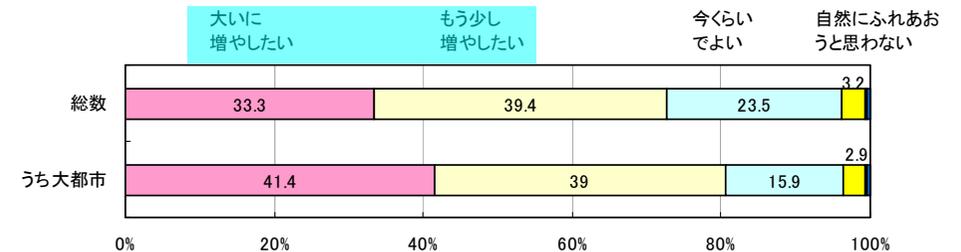
内閣府が平成18年6月に実施した「自然の保護と利用に関する世論調査」の結果によると、自然への関心について、「関心がある」との回答が86%と最も高く、都市規模別にみると「関心がある」とする者の割合は大都市で高くなっている。

また、自然とふれあう機会を今よりももっと「増やしたいと思う」とする者の割合が73%と最も高く、都市規模別にみると「増やしたいと思う」とする者の割合は大都市で高くなっている。

自然への関心 (N=1,834)



自然とふれあう機会 (N=1,834)



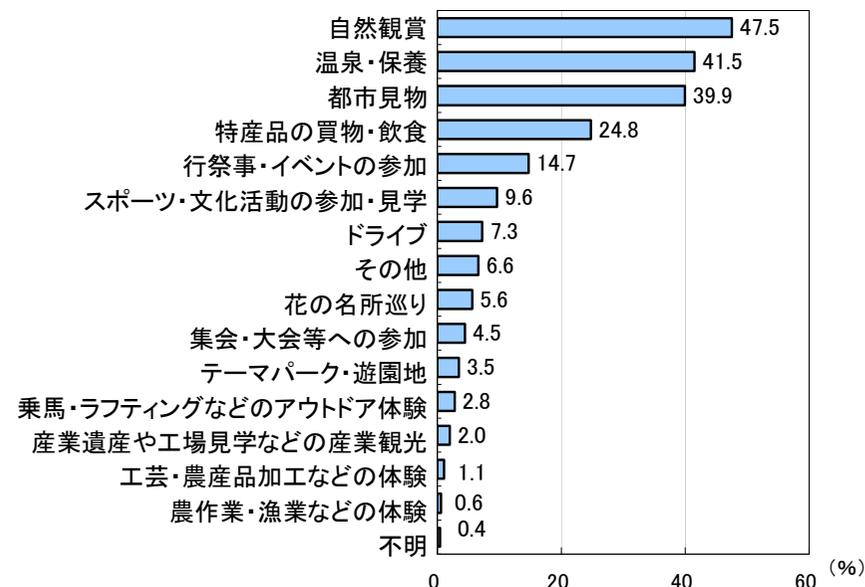
出典：平成18年 自然の保護と利用に関する世論調査（内閣府）

● 観光客の旅行内容

平成14年度の来道観光客動態調査報告書によると、来道観光客の旅行内容は、自然観賞が47.5%と最も多く、次いで、温泉・保養、都市見物となっている。

一方、アウトドア体験は2.8%、工芸・農産品加工の体験、農作業・業などの体験は1%未満である。

旅行内容（複数回答、N=3,679）



出典：平成14年度来道観光客動態調査報告書（北海道）

〔課題〕

道外からの来道者は一定規模で推移し、修学旅行先としても根付いている。一方、自然とふれあう機会を増やしたいと思う人が多い中、来道目的は、自然観賞にとどまっており、自然の中での体験活動を行う来道者は限定的。北海道の7割を占める森林についての理解を効果的に進めるためには、来道者に森林の中での体験活動の機会を広く提供する取組が必要。